



湾岸・アラビア半島地域ニュース

イラク：米警備会社による銃撃事件

(9月16日付現地報道)

1. 9月16日、米国要人を護衛していた米民間警備会社「ブラック・ウォーター社(BW社)」のコンボイが修復後の開通式の最中のアルヌスール・スクエアを通過中に発砲し、イラク人10名が死亡、13名が負傷した。原因は、コンボイの近くで爆発が発生した、迫撃砲が着弾した、武装イラク人が発砲した、と種々の説があるが明らかではない。
2. 17日、イラク政府はBW社の労働許可の停止を発表した。但し、米大使館はこれを確認していない。同日、ライス米国務長官はマーリキー首相に電話連絡し、謝罪した。イラク・米政府は、事件の調査と関係者の処罰を行うことで合意し、事態收拾のための合同委員会を設置した。
3. 18日、ムクタダ・サドル事務所は本件に関し、(1) BW社及び他の警備・諜報会社の業務停止、(2) 政府による早期の事件調査、(3) イラク司法府による関与者の公正なる処罰、(4) 被害者及び遺族に対する損害賠償を求める声明を発出した。
4. 18日及び19日、在イラク米国大使館は、コンボイに対する報復を警戒し、国際シヨナル・ゾーン以外のイラク全土での米国政府関係者の陸路移動を当面行わないこととした。
5. 19日、ダッバーク政府報道官は、BW社の労働許可停止は恒久的なものではなく、今後、米国と協議の上で必要な措置を決定していく旨述べた。他方、マーリキー首相は、BW社は今回の事件でイラク国民及び政府に多大な嫌悪を与えたとして、米国政府にイラクにおける警備オペレーター会社を変えるように求めた。